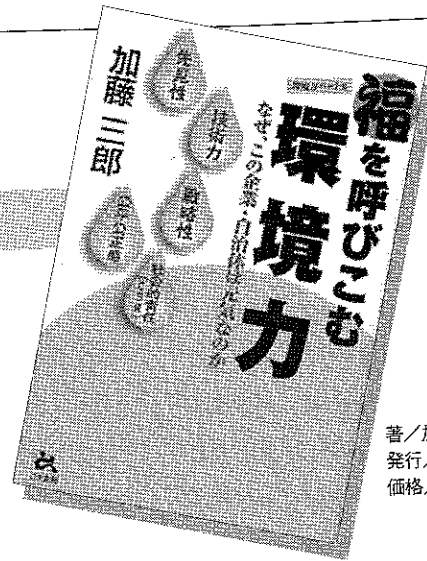


環境が気になる人へ

『福を呼びこむ環境力』

元気な企業・自治体の秘密

環境を良くしようという試みは、もちろん、地球や一人ひとりのためだが、それは同時にビジネスチャンスでもある。元気な企業や自治体には、“環境力”を重要視して経営をおこなっているところが数多く見られるが、本書はそれらの事例を紹介。環境問題への取り組みは、自然環境保全とともに、経済力アップ、社会再生への可能性も含んでいる。



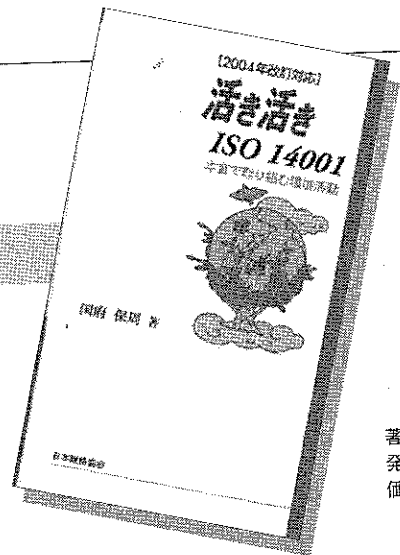
著/加藤三郎
発行/ごま書房
価格/1260円
(本体価格1200円)

環境をもっと知りたい人へ

『生き活き ISO14001』

社内教育の入門書

環境への取り組みの一つの指標である“ISO14001”。組織の取り組みとして、認証に力を入れている企業も増えている。本書は、ISO14001の性格・目的などの基本エッセンスや運用管理の秘訣だけでなく、組織として、また推進役としてのあり方も分かりやすく教示。2004年の改正を受けての新版規格への活用についても触れている。



著/国府保岡
発行/日本規格協会
価格/1365円
(本体価格1300円)

環境を良くしたい人へ

『環境学生 実践のエコロジー』

一人ひとりの可能性

環境問題が大きくなればなるほど、日常生活からかけ離れたものに思える人も少なくないだろう。その壁をいかにして崩し、環境問題に取り組んでいくかを示してくれるのが本書だ。東京農業大学が実施する「環境実践学生コンクール」の入選作から、アルバイト先での省エネ推進活動、美化清掃、校庭づくり、エコクッキングなどの実践レポートを紹介。学生や個人の可能性を再認識させる一冊だ。



編/東京農業大学
発行/誠文堂新光社
価格/945円
(本体価格900円)

Book & Culture

New

『ゴミ太郎が往く 日本列島クリンナップ大作戦!』

ゴミとともに生きて、思うこと

生まれて60年、そのうち27年間、ゴミ処理の仕事に携わり、ゴミとともに生きてきた著者“ゴミ太郎”が語るゴミ問題。彼が体験した、ゴミ処理現場でのさまざまなエピソードの中に、日本のゴミ処理の問題点が浮かび上がっている。

例えば、ゴミ処理の処分場を作るとなれば、地域住民はこぞって反対運動を展開する。それは、ゴミ処理には「悪」のイメージが根付いており、それが蔓延しているからだ。なくてはならないものなのに、そうした悪のレッテルを貼られてしまったのはなぜか。そして次に、そのイメージを払拭するために、処理業者は地域住民とどのようにコミュニケーションをとったか。ここでは、処理業者側から見たゴミ問題の現実や苦悩が、率直に綴られている。

ゴミ太郎は、そうした現場を数々体験してきたうえでこれからの廃棄物処理やリサイクルについて語る。私たち消費者側からは見えないゴミの姿が、ここにはある。



著/坂入一己
発行/文芸社
価格/1575円 (本体価格1500円)

Eco Culture ~ VIDEO ~

『エビの履歴書』



VHS/NTSC/カラー 27分

食卓にのぼるエビは天然もの？ 養殖もの？ それを意識・認識している人がどれくらいいるだろうか。さらに、天然と言っても、大型船での漁と小さな木の船での漁には、環境負荷のうえで大きな違いがある。養殖だって、エサなどの影響は大きい。エビの成育環境をビデオで学習し、食料について改めて考えてみよう。DVDも発売あり。

【制作】
特定非営利活動法人
アジア太平洋資料センター (PARC)/2004年
【監修】
村井言敬
【構成】
鈴木敏明
【撮影】
鈴木隆史/ウブル・アマルシーハ/大野和典
佐伯奈津子/今成彩子/鈴木敏明
【価格】
8400円 (本体価格8000円)
※DVD8400円 (本体価格8000円)
【問合せ】
特定非営利活動法人
アジア太平洋資料センター (PARC)
(03-5209-3455)
<http://www.parc-jp.org>